

トヨタ紡織九州(株)

トヨタ紡織九州株式会社は、当時の親会社であるアラコ(株)の100%出資子会社として1991年に設立され、自動車用シート、ドアトリム、エンジン周辺部品を製造・販売しています。2004年10月にアラコ、タカニチ、豊田紡織の3社が合併し、親会社がトヨタ紡織に変わったのに合わせ、2005年4月に社名を変更し、中期ビジョン・スローガンである「世界のトヨタ紡織グループ工場でSQCDE No.1を目指す」のもと、全社一丸となってレクサス品質に拘り生産を行っています。また、よき企業市民としてもボランティア活動や地域共生活動にも全社をあげて積極的に取り組んでいます。

しかし、2014年、2015年は新型車の立上げ、フルモデルチェンジが続き、2015年は不具合発生率が過去最悪の状態になり、2017年から2018年に計画されている3車種連続立ち上げで同様の状況が続けば、客先から全ての信頼を失う可能性があるという危機感を持たざるを得ない状況にありました。そこで、「真にお客様に信頼される企業になる」を目的に、2016年度からTQM活動に取り組むことにしました。活動をすすめるにあたって

- 1) トップのリーダーシップを明確にし、常により高い目標達成を目指す
- 2) 常に多面的改善活動を通じて目標達成と人財育成を実現する
- 3) 仕事の流れを整理し標準化することで、業務品質を向上し日常管理を徹底する

を掲げ、TQMへ取り組む目的を共有化し全員参加で活動を推進しています。

トップのリーダーシップでは、「方針解説書の作成」「方針フォーマットの見直し」等により、トップの思いや方針のつながりが見えるようになり、方針達成率が向上してきました。

改善活動では、目的に応じて「全員参加活動」「職制改善活動」「部門横断活動」の3種類に分類し、推進体制を明確にしたことで、活動が強化され慢性的に発生していた工程内不良の低減や原価改善額の大幅な増加、改善スキルの向上がはかられました。

標準化と日常管理では、管理項目・管理水準を明確にしたことでSDCAサイクルが回るようになり、新製品立上げ時の不具合や自工程監査での指摘件数が減少しました。

今後は、TQMの基本である「お客様第一」「全員参加」「絶え間ない改善」をベースに企業体質を更に強化し「世界のトヨタ紡織グループ工場でSQCDE No.1」の実現を目指し、常に成長できる会社づくりに取り組んでいきます。

所在地: 佐賀県神埼市

受賞理由

トヨタ紡織九州株式会社(以下、同社)は1991年に設立され、トヨタ自動車九州(株)宮田工場向け、レクサス車用シート、レクサス車用ドアトリムなどを生産している。中期ビジョン・スローガン「世界のトヨタ紡織グループ工場でSQCDE No.1を目指す」のもとに、レクサス品質にこだわりTQM活動を行っている。

同社のTQMの第一の特徴は、基本理念の浸透によるレクサス品質である。第二の特徴は、フロントローディングによる品質保証である。第三の特徴は、地域に根差した社会貢献活動である。これらの活動の結果、営業利益率、総生産能率などが向上しており、高く評価できる。